

群馬県議会議員

鈴木 あつこ

<https://suzuki-atsuko.jp>

2023年夏号 Vol.9

SUZUKI ATSUKO

NEWS

リベラル群馬ニュース

一般質問に  
登壇しました  
(5月31日)



いつも大変お世話になっております。日々の活動へのご理解・ご協力に心より感謝申し上げます。

4月の選挙で再び県議会へと送り出していただき、新たな気持ちで第2回定例会（5月17日～6月13日）に臨みました。私の使命は社会の隅々にまで光を当てることです。とりわけ女性や子どもの視点を大切にしながら子育て当事者や生活者の声、そして弱い立場にある人の声をしっかりと県政に届けてまいります。

約3年に及ぶ新型コロナウイルス禍を経て、浮き彫りになった社会のひずみの解消を図ると共に、一方で、柔軟な働き方やオンライン化等の利点は継続・発展させたいと思っております。引き続き宜しくお願い致します。

暑さ厳しき折、皆様どうかご自愛ください。

#### 議会報告

- ・物価高騰対策支援や  
高校生までの医療費無料化  
などを可決
- ・文教警察常任委員会
- ・少子化対策・Well-being  
に関する特別委員会

地域での取り組み ほか



## 【一般質問】



群馬県議会では本会議で一般質問に登壇できる機会が年1回しかないため、議員にとって、とても重要な場です。時間は執行部側の答弁も含めて65分間。今回は母子家庭への支援や、赤ちゃんからお年寄りまで障がいの有無に関わらず共に過ごせる居場所づくり等、6項目について、私なりの観点で質問いたしました。概要をご紹介します。  
( )内は答弁者。

### 1. 児童虐待防止に係る警察の取組について（警察本部長）

- Q. 警察が把握している児童虐待事案の現状は？ また、家庭に対する福祉的な支援が必要なケース等で、多機関との連携状況は？
- A. 昨年の認知件数は529件。うち45件を暴行罪や傷害罪で検挙した。10年前と比べて認知は4.5倍、検挙は2.3倍に増加。心理的虐待、とりわけ「面前DV」（児童の前での配偶者等への暴力）が多い。多機関連携については児童相談所、市町村、学校・幼稚園・保育園、医療機関等と相互に情報共有し、専門性を発揮して対処することが重要だ。虐待が疑われる事案は全て児童相談所に情報提供し、緊急性が高いものは一時保護に繋げている。引き続き緊密な連携を図り、児童の安全確保に向けた取り組みを確実に進めたい。

#### ポイント！

子どもの深夜徘徊や家出、食品の万引き、親の自殺企図、等々通報を受けた警察が向き合う子どもは虐待の被害者かもしれません。適切な支援への橋渡しが求められます。



警察本部長

### 2. 母子生活支援について（生活こども部長）

- Q. 全国的にも珍しい県営住宅でのシングルマザー専用シェアハウスの現状は？
- A. 令和元年7月に前橋市の広瀬第2県営住宅に設置され、令和5年4月から7戸満室になっている。地域開放スペースでは地域の民間団体による無料学習支援等もあるが、コロナ禍で滞っていた。今後は入居者同士の積極的な交流を促し、自立に向けてつながりを深めたい。
- Q. 児童福祉施設「母子生活支援施設」の現状は？
- A. 前橋市、高崎市、太田市に計3カ所あり、そのうち県所管は太田市にある民間施設。定員20世帯中18世帯が入居中で、DV被害者が多く県外からの避難者もいる。
- Q. 母子生活支援施設を児童虐待ケースでも活用できないか。
- A. 児童虐待ケースでは児童相談所が関わり、必要な援助や指導を行っている。母子生活支援施設には、まずDV被害者らの自立を支援する役割がある。その上で、子どもの最大の利益の為に必要なら活用を考えたい。

#### ポイント！

仕事と家事育児を一人で担う母子家庭は大変です。母親がホッと一息つける時間が不可欠です。助け合い、支え合いながらの子育ては親子の笑顔に繋がります。一方で、両立しやすい環境整備や児童扶養手当の所得制限見直し等、国を挙げた取組も必要だと思います。



生活こども部長



### 3. 外国人児童生徒等のキャリア教育について（教育長）

- Q. 困難な状態にある外国人児童生徒等にとって、高校卒業が重要な意味を持つ。東京出入国在留管理局によると、将来、日本で働くには在留資格の変更（「家族滞在」から「定住者」や「特定活動」へ）が必要で、それには高卒資格が条件の一つだという。県内の外国人児童生徒等に対して現在どのような取り組みがあるのか。また、課題は？
- A. 自らの力で生き方を選択できるように必要な能力や態度を身に付けるキャリア教育が非常に大切だ。外国人の高校進学率は90%だが、中退者もいる。そこで令和3年、中学で7言語の進路ガイダンス動画を作成し、学科や取得可能資格、奨学金、就学支援金制度等を説明した。昨年度は小学校で7言語のロールモデル動画を公開。県立学校では個別の学習支援や進路相談を実施し、NPO法人による相談窓口や進学・就職セミナーを活用している。さらなる支援体制の整備を予定している。課題は保護者の理解を促す仕組み作り。さらに、外国人のキャリア形成について社会全体の理解も必要だ。引き続き関係機関との連携を進めていく。



教育長



#### ポイント！

取組自体は素晴らしいので、引き続き、児童生徒や現場の先生の声が反映されるよう期待しています。



## 4 外国人との共生について（知事）

- Q. 在留資格がない、例えば難民申請が認められず「仮放免」の状態など、制度の狭間にいる子どもたちが県内にもいる。多文化共生に力を入れている知事の見解を伺いたい。
- A. 前提として、仲間である外国人県民とは適法に居住している人。現在、県内には6万5000人を超える外国籍県民がいて、外国人なくして群馬の経済は成り立たない。ただし、日本人との間で意識のギャップがあり、埋めるには相互理解が大事だ。多文化共生推進月間の10月に親子向けの交流イベントを実施し、子どもの頃から多様な価値観を学ぶ環境を作っていく。群馬ほど多文化共生・共創を明確に掲げている県は他にない。慎重な意見もあるので、丁寧な取り組みで壁を切り崩したい。在留資格のない子どもについては、居住市町村とよく相談が必要だ。

### ポイント！

子どもは生まれてくる場所も親も選べません。日本で育ち、学校に通い、勉強し、友達と遊び、将来の夢を描いている子どもたちにとって、日本はかけがえのない故郷です。未来を支える子どもたちが強制送還や一家離散の危機に陥らないよう、健やかに育つ環境を整えるのは社会の責務だと考えます。



知事



## 5 宅幼老所（地域共生型サービス）について（健康福祉部長）

- Q. 「宅幼老所」とは、小規模で家庭的な雰囲気の中で、子どももお年寄りも障がい者も一緒にケアを受けられる施設で、個々の生活リズムに合わせて柔軟なサービスを行う取り組み。インクルーシブで“ごちゃまぜ”の場所。長野県では各小学校区に1カ所あり、富山県でも「富山型デイサービス」として広まっている。県内の状況と今後の展望は？
- A. 宅幼老所の開所手続きが不要なので正確な数は把握していないが、障がい者福祉と高齢者介護の両方の指定を受けた事業所は県内で計50件。「8050問題」や「ダブルケア」等、様々な福祉課題が既存の制度では対応できず、また担い手不足の課題もある。（宅幼老所は）高齢者の生きがいや子どもの思いやりの醸成にも繋がる。県としては包括的な支援体制の整備に取り組む市町村や事業者への説明や周知に努める。

### ポイント！

福祉サービスの「縦割り」の壁を取り払うことで、支援する人とされる人がいつでも入れ替わる環境をつくりたい。誰もがその人らしく、役割と尊厳をもって、生きがいを感じながら過ごせるのではないのでしょうか。また、宅幼老所には、障がい者とその老親と一緒にサービスを受けられる等のメリットもあります。



健康福祉部長

## 6 ハンセン病の普及啓発について（健康福祉部長、知事）

- Q. 差別や偏見の歴史を風化させないため、また人権について学ぶ場として、草津町にある国立療養所「栗生楽泉園」や全国で唯一の「重監房資料館」をもっと積極的に活用してはどうか。
- A. パネル展の開催やリーフの配布等、栗生楽泉園や重監房資料館等と連携している。偏見差別の歴史を重く受け止め、風化させないように、また元患者の名誉を回復し、穏やかな生活を送れるよう取り組みたい。現地見学バスツアーの復活は検討中だ。草津町出身の私（知事）にとって身近な存在であり、その点も踏まえ対応したい。



### ポイント！

「日本の温泉文化」をユネスコ無形文化遺産にしようと、群馬県は今、力を注いでいます。一方でハンセン病は温泉の湯治文化や歴史と切っても切れない関係にあるため、私は光を当てる好機だと考えます。

## 【委員会】

### 文教警察常任委員会

こんな質問をしました！

- ▽県教育委員会に対して
  - ・教員不足の現状と、介護離職教員の再任用について
  - ・定年退職した職員の臨時採用を巡る“任用制限”について
  - ・高校生の自転車通学に関して通学路の安全確保について
  - ・国立重度知的障害者総合施設「のぞみの園」での教員研修の取組について
- ▽県警察に対して
  - ・痴漢撲滅キャンペーンの取組について※

### 少子化対策・well-beingに関する特別委員会

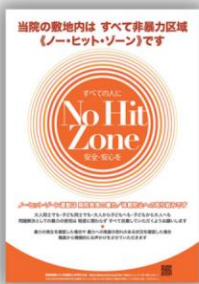
- （取り扱うテーマ＝子育て支援や健康寿命延伸、県民幸福度コミュニティ・スクール導入、多様性社会など）
- ▽青少年・児童福祉課、県教育委員会、県警察に対して
    - ・子どもへの暴力防止プログラム「CAP」について
  - ▽労働政策課に対して
    - ・若者向けライフデザインを考えるデジタル冊子「LIFE100」に関連し、経営者等への啓発について





本会議や委員会で取り上げた話題の中から注目のトピックスをご紹介します！

### 『ノー・ヒット・ゾーン』（暴力暴言禁止区域）運動



児童虐待対策における  
多機関連携にも繋がる

児童虐待をはじめ、あらゆる暴力の禁止を呼び掛ける医療機関発の取組。患者や家族を守るだけでなく、医療スタッフへのハラスメント対策にも効果的という。現在導入しているのは全国で2病院、うち1つが前橋赤十字病院で、今後は県医師会等の協力により県内の他の医療機関にも広がっていく見通し。

### 痴漢撲滅キャンペーン ※



主要駅でのポスター掲示や  
警察官による啓発グッズの配布等  
—上信電鉄高崎駅にて—

警察等と鉄道各社の合同キャンペーン。首都圏では毎年6月に実施されているが、群馬県は今年度から、初めて電車通学する高校生や大学生らが増える4月にも実施した。被害者や加害者の周囲にいる人に対し傍観者ではなく

**アクティブバイスタンダー（積極的に行動できる第三者）**になるよう訴えているのが画期的で、非常に優れた取組。

総額約66億8000万円の一般会計補正予算案が可決されました。主な内容は次の通りです。

- ・LPガス利用者負担軽減
- ・給食食材費の高騰に係る保護者負担軽減
- ・物価高騰対策に取り組む私立学校、保育所・認定こども園、児童養護施設、子ども食堂、医療・介護・福祉施設などへの支援

1人につき  
30～50円 / 1食  
×190食の補助

前向きな取組  
やDX活用等の  
条件付で支援

- ・畜産農家、酪農家への支援
- ・特別高圧電力価格高騰対策支援
- ・高校3年生までの医療費無料化
- ・尾瀬設備クオリティアップ

10月から  
県内全市町村で  
スタート

（歩荷の萩原雅人氏が木道修繕のためクラウドファンディングを実施）



県庁31階「ギンガム」見学



労働組合主催交通政策学習会



利根川プラごみ調査



がんサロン見学



重度心身障害児の居場所「ひびきっす」座談会



障がい者芸術支援活動「あめんぼ夏祭り」見学



難民の実態調査



地域の自主防災会



通学路の横断歩道新設



交差点の安全対策話し合い



地域の取り組み  
(一部抜粋)



### ◇プロフィール◇

1981年生まれ。派遣社員を経て、毎日新聞社で記者として主に前橋支局で勤務。子育てや教育、福祉、労働、人権、ジェンダー、防災、地方創生などのテーマで社会問題を幅広く取材。2021年に退社して県議補選で初当選。2023年の県議選で2期目当選。家では思春期まっただ中の娘とやんちゃ盛りの息子に振り回されている。奈良女子大学卒。保有資格は中学／高校教諭 一種免許状（英語）、博物館学芸員。古墳と遺跡とソフトボールとラグビーが好き。

鈴木あつこへの応援をよろしくお願いします

### ボランティア

ピラ配り、座談会の開催、SNS投稿シェア、街頭活動の応援、LINE登録など無理のない範囲でご協力いただければ幸いです



### 「鈴木あつこ後援会（旧応援する会）」

- ▽お名前
  - ▽ご住所
  - ▽電話番号
  - ▽FAX番号
  - ▽メールアドレス
  - ▽所属団体・紹介者
  - ▽ポスターや看板の設置可否
- 事務所までお好きな方法でお知らせください  
QRコードからもご登録いただけます→



### ご寄付

振込先：群馬銀行 倉賀野支店  
普通0802489 鈴木あつこ後援会

大切に使用  
させていただきます



日々の活動報告は  
こちらから



公式  
ホームページ

### 事務所

〒370-1201 倉賀野町1592-2 (旧「小金沢医院」2階)  
TEL/FAX 027-335-6485  
※留守番電話の時はメッセージをお願いいたします  
MAIL suzuki.atsuko01@gmail.com